

やさしいオinna

脚本／上岡 久美子

出演／

アカネ

木庭弘幸

木庭美奈子

川嶋葉子

駅のアナウンス

「登場人物」

- ・ 木庭 弘幸 四十二歳。通信社勤務。
- ・ 木庭 美奈子 四十二歳。弘幸の妻。企業付けの臨床心理士。
- ・ 川嶋 葉子（ハコ） 四十一歳。木庭夫婦の学生時代からの友人。独身。
- ・ アカネ 三十一歳。弘幸の浮気相手。派遣社員。独身。
- ・ 駅のアナウンス

「場面」

- ・ JRと私鉄が接続する乗換駅。
- ・ 乗換駅近くにあるワンルームマンション。
- ・ ベッドタウンにある一戸建てのリビング。

大量の客が往来するJRと私鉄の乗換駅。
イライラしながらスマホで電話する弘幸。

弘幸 だからキバじゃなくてコーバ。ツリーの木にお庭って書いてコバ
って読むの。木庭弘幸。…お客様番号？今分かんないよ。

駅のアナウンス お客様にダイヤの遅れをお知らせ致します。20時
10分ごろ、当駅3番ホームにおきましてお客様が列車に接触し
線路内に転落する事故が発生いたしました。現在、現場の状況を
確認しており、下り線すべての運行を停止しております。お客様
には大変ご迷惑をおかけいたしますが、運行再開まであと一時間
程度かかる見通しです。

騒然とする駅構内。

弘幸 荷物大丈夫だから玄関前に置いといてよ。…。だから平日無理
だって！クロネコさん！？クロネコさん！？

弘幸、電話に気を取られ前方にいるアカネにぶつかる。
アカネ、前のめりに倒れる。

アカネ (足首をさすりながら) いったあ…あ…(ヒールの折れたパンプ
スを見る)

弘幸 あ！あ…。(周囲を探す) あっ！(折れたパンプスのヒールを見
つけてアカネに差し出す) どぞ…

アカネ、ヒールを差し出す弘幸を見て思わず吹き出す。
弘幸もつられて笑う。

手を差し伸べてアカネを支えて抱き起す。

木庭家のリビング。美奈子とハコがソファでだべっている。

ハコ マジで？うえ…えげつなー…。

美奈子 そうなのよ。あのオンナどもターゲット決めたら絶対ブレないし、

弱ったとこ徹底的に攻撃してくるし。

ハコ 何だかお腹痛くなってきたよ：

美奈子 ハコもずいぶんやられてたもんね。

ハコ 鬼のようなお局様に……。最初っから嫌われてた。なんで？

美奈子 そりゃ匂ってくるわけよ、小動物的なナイーブさ。オンナってさ

そういうの敏感にかぎつけるのよねー。

ハコ やっぱー。

美奈子 理屈じゃないの。不思議なもんでさ、普段は悪口言い合ってるのに、急に仲良しこよしになってイジメ始めるのよ。

ハコ やだー

美奈子 今日もその子ね、目に涙いっぱいいためてカウンセリング室にやっ
て来てさ。即パワハラ委員会開催よ！ といっても、臨床心理士
のアタシしかいないんだけど。こうやって（かわいこぶるポーズ
で甲高い声を出して）「美奈子先生」ってキレーな顔で泣きつい
てくるの。

ハコ 受付嬢かあ：ビボーをウリにする職場でなくてよかった。

美奈子 そう、ほどほどが一番なのよ。だから十人並だけど毎日、のんきに

暮らすハコみたいな人間が一番いいの！ あ、それでもイジメ

られてたのか、それって悲惨じゃん？！（手叩いて笑う）

ハコ ひどっ！ 何ウケてんのよ！

弘幸が帰宅。ハコが気づく。

ハコ あ、お帰り。

弘幸、立ち止まり軽く頭を動かして応じる。

ハコ 遅かったねー、あもしかして人身事故で列車止まったた？

弘幸、ハコを見ずに微妙に顎を動かして返事をする。

ハコ （冷蔵庫からビール缶を取り出し弘幸に手渡しながら）あそーア

タシ、ギリギリセーフだった。

弘幸、食卓の上にある宅配物を見つける。

美奈子 （箱を見つめる夫をチラッと見て）お義母さんから。あ、そーだ

（ハコに）野菜持って帰る？

ハコ え、（弘幸を気遣いつつ）いいの？

美奈子 うん、何度か言っているんだけど、料理しない嫁って見たことないみたい。ああやって送ってくんのよ。（弘幸に）いいよね？

ハコ （うんうんと頷く弘幸を見て）じゃあまあ：（寝室に向かう弘幸によそ行きの声で）遠慮なくいただきまーす！

弘幸、ハコに手で応え、寝室に消える。

テレビのリモコン操作をする美奈子。

ハコ あーあ、今夜も別々に寝んのか。かわいいそコバっち。

美奈子 独身のハコの夢壊して悪いけど、結婚して子ども生まれて二十年もたちやこんなもんよ。

ハコ あんなにラブラブだったのに。

美奈子 そりゃ二十歳そこそこで出会ってお互いヤルことしか考えてないよね。特にあっちは青春台無しにして受験戦争勝ち抜いてきた組だしさ。親元離れて無駄にはじけまくってたし。

ハコ イケメンだったよねコバっち。

美奈子 イケメンかあ？ 学生ん時は、そこそこモテてたみたいけど：今じゃ見る影もないよねえ。

ハコ えそう？今でも全然イケてるよ。

美奈子 冗談？！ コバちゃんなんてダメダメ。ああいうお醤油顔はさ、歳とったらただの疲れたオッサンになんのよ。

ハコ 面食い過ぎんよ美奈子は。

美奈子 違うって！ イケメンっーのはさー櫻井さんみたいなの言うのよ。ホントかっこよかったなー彫りが深くって。ギリシャ彫刻みたいな顔がこんな近くに迫ってきて、こんなよ（顔の前で、手で距離を表しながらうろとりする）

ハコ 櫻井さん。

美奈子 何？ 美奈子の大切な初体験の男の話聞きたくないの？！

ハコ もう耳にタコが出来るくらい聞いたよ：いやそうじゃなくて櫻井

さんさこの前テレビ出てた！

美奈子 うっそ！マジ？！なんで？！

ハコ うん、工業デザインでなんかすごい賞取ったって。

美奈子 芥川賞！

ハコ みたいないな！

美奈子 ニュースで？

ハコ ああ。

美奈子 （ハコに詰め寄り）ね、結婚してるってゆってた？

ハコ エネーチケーが言うか。つーかまだそんなこと気になるの？

美奈子 えー：見たかったそれー。

ハコ は、どっかの物好きが動画あげてるかも。

美奈子 （スマホ取り出し）おっし、ヤフーでググってみよっ。

ワンルームマンションの一室。

アカネが一人誰かを待つ。

インターフォンが鳴り、ドアを開ける。

アカネ おかえり。

弘幸 ただいま。

二人、顔を見合わせて同時に笑う。

背広を脱いで慣れた様子でハンガーにかけて座卓に着く弘幸。

弘幸 （コンビニ袋を差し出し）ビール、つまみも。

アカネ ありがとう。

アカネ、グラスに注いで渡す。

アカネ なんか食べてきた？

弘幸 うん。ちよっとね、会社のヤツと。

アカネ で、どうだった？

弘幸 うん？

アカネ ほら、前ゆってたプレゼン。今日だったでしょ？

弘幸 あ、うん、ばっちり。

アカネ そう、よかった！ ホントにお疲れさまだね（ビールを注ぐ）。

弘幸 うん！（ビールを飲みほし）ああ：和む：。このまま泊まっちゃ

おうかなー

アカネ え：。

弘幸 あ：いや。ごめんごめん。そうだよね。

アカネ 泊まるのは：ちよつと：。

弘幸 いや！ごめん！ 忘れて、ね！

アカネ 朝は管理人さんがいるから：。

弘幸 アカネ。（折れたヒールをかわいらしくデコって大事そうに飾って

あるのを見て）あの日から一か月もたたないのに家上がり込むなんて、きつと図々しい男だと思っっているよね。でも、信じて欲しい。アカネのこと本当に大切に思っただけだからね。

アカネ 頷き、うっとりとした表情で弘幸を見つめる。

弘幸 （独白）こんなかわいい子が、目ウルウルさせてオレを見てる：。

アカネ 弘幸さん、肉じゃが作ってみたんだけど、食べる？

弘幸 お、いーねー。

アカネ じゃ、あつためるね。

（独白）ああ：こんな幸せな日々が来るなんて：。大学進学とともに裏ニッポンから上京し、憧れのトーキョーっぽい女と付き合っただけいいが、社会人になるやいなや、女の実家エリアで確保されそのまま婚姻生活に突入だ。その後は、妻に主導権を握られ、柔軟剤ですら俺の好みの香りが採用された試しはない。娘の教育問題でもそうだ。近くの公立に入れときゃいいものを、「（美奈子の口調を真似して）国際機関で働くにはフランス語がなきゃだめなの！」。バツカ高いモントリオールの高校に留学させやがって。緊迫する中東情勢よりハワイアンパンケーキの新店情報に夢中の我が愛すべき娘が国連職員ってタマカ！？ 「（美奈子の口調で）今週中に授業料払つといてね」。トースト食いながら言う台詞か！？ 三百五十万だぞ！ ウチはサラリーマン家庭なんだぞ！

アカネ 弘幸さん：お風呂入る？

弘幸 （小学生のように元気に）うん！（独白）あ：マジヤバ：。思えば家庭に居場所を失い、会社を泳ぐことにも疲れ果てたオレ。そ

れに引き換え妻の輝かしいキャリアはどうだ。企業付けの臨床心理士になり、今ではオレより稼ぎがいいときた。妻の自立とともに訪れたのが夜の生活からの離脱。もうずいぶんセックスレス状態。あいつ…オレがオスをリタイヤしているとでも思っているのかな。

弘幸の回想に美奈子登場

美奈子 …まだしたいの？

弘幸 デレカシーのカケラもない言葉に、どれだけ深く傷ついてきたか…。美奈子の専制政治の下、家具のように静かに埃を被って朽ち果てていくのみに諦めかけていたが…。

アカネ (照れつつも蠱惑的に) 今日…アカネが…洗ってあげるね？
な…んて、お風呂準備するね(パタパタと風呂場へ行く)

弘幸 ああ…(一人崩れ落ちる。思わず目頭を押さえる。独白) なんなんだ?! 一体、オレの人生にナニが起きているんだ?! 最初は処女のようにただ受け入れるだけだったのに、このごろはどこにタマ投げてても絶妙なボールを打ち返してくる。それにあのシヤラポアのような喘ぎ声。オレの貧困な性体験にあんな歓喜の叫びを上げた女がいたか? いやいない。あれは本気なのかそれとも…。しっかりとしろオレ!! 自信を持ってオレ!! まだイケるんだよ。オスとしての魅力でむんむんしているんだよ。狼狽えるなオレ。これはリアルであって決してオレオレ詐欺じゃない。オトコを見せるオレ。ヒロユキ! ボンバイエ! だ!

アカネ (風呂準備から部屋に戻り) あ、そーだ弘幸さん、パソコン強い? ちよつと調子悪くって…

弘幸 あ、いーよ。見せて。

アカネ (パソコンを立ち上げようとして、ビールの入ったグラスをキーボードにぶちまけてしまう) あ!!

弘幸 あ、あー…!(ティッシュを大量に引き出してパソコンを拭く)

アカネ (蒼白になって) …どうしよう。どうしよう!
弘幸 大丈夫だよ大丈夫! 乾いたら意外と直ってるって言うし。ちよつと様子見てみようよ。

アカネ (泣きそうな声で) でも、どれくらいで乾くの?

弘幸 三時間ぐらい？ あ…終電。泊まりは…まずいよね。
アカネ ……。このパソコンね、大切な写真が入っているの。

弘幸 大切な…人？

アカネ ……。うん。

弘幸 (妙に明るい声で) あ、そうか、そうだよね！うんうん、だって
はは、こんなかわいいんだもんないー。

アカネ (激しく頭を振る) そんなことない！

弘幸 (真顔で) いや、そんなことあるよ！ 僕なんてもう枯れかけた
オジサンだし。

アカネ そんなことない！ わたし、わたし、本当は…

弘幸 (息を詰めて次の言葉を待つ) ……。

アカネ ……何でもない。

弘幸 何でもなくないよ。本当は何？ 本当は何なの？

アカネ ずっと欲しい…けど…。(ちよっとすねた感じで) 家で娘さ
ん待ってるでしょ？

弘幸 (ホツとして) なんだそんなことか。あいつもう高校生だし、最
近しつかりできて、自分のことは自分でやってるしね。アカネ
はそんなこと心配しなくていいの！ ね？

アカネ、安心した様子で立ち上がり、部屋から消える。

弘幸 (独白) ああ…、バツイチのシングルファーザーだって信じ切っ
てるよ。ピユアだよなあ健気だよなあ…。こんなオレなんか…。

アカネ 弘幸さん、お風呂できたよ

弘幸 (バカ元気に) はい！ (独白) 結局お泊りすることになったか
…。ま、いつか。どーせ美奈子のやつ別室で寝てるし。オレなん
かに興味ないし。オレの人生に温かい食卓と熱い夜の生活、そし
て尊敬の眼差しが戻ってきたんだ。絶対にこの幸せを守らねばな
らない！ たとえこの子を欺いたとしても！！

木庭家のリビング。

ダイニングキッチンでぐつぐつと煮込み料理を作る美奈子。

弘幸が帰宅。

弘幸 (美奈子の背中に) 何やってんの？

美奈子 (とっさに振り返り) うわ！：もう何〜！？

弘幸 いや珍しく台所にいるなーと思って。カレー？

美奈子 ベジブロス。

弘幸 へ？

美奈子 野菜切った後に出てくる皮や根っこあるでしょ。あれを鍋にぶっこんで作る万能出汁なのよ。テレビでやってて、フツー捨てるって再利用するなんてエコでしょ？ それが作りたいんだけどほら、生ゴミってスーパーで売ってないじゃない？ だから仕方なくカレー作ってんの。

弘幸 はあ…。

美奈子 はあー。ひっさびさに料理っていいわねー気晴らしになつて。

弘幸 (独白) 毎日毎日好き放題やってるくせに何で無断外泊した翌日に限ってコイツに気晴らしが必要なんだ…。

美奈子 (鍋を覗き込みながら) コバちゃん、昨日どこで寝た？

弘幸 (システムキッチンに派手にのけ反り) えっ！！

美奈子 (夫の反応にびっくりして振り返り) え、え？

弘幸 いや：寝たよ寝た！！ 寝ないわけにいかないだろ、ニンゲンである以上、睡眠はヒトの三大欲求の一つなんだから！！

美奈子 どうしたの？ リビングで寝たのかなーって聞いただけじゃん。

弘幸 (独白) はっ！ はめられたのか？！ おとり捜査か！！

美奈子 目エ血走ってたよ。そんなにしんどいの？ 今の職場。

弘幸 いや：。いやそうだけど、そうじゃなくて。えー…

美奈子 しっかりしてよ、家でもメンタルヘルスなんて嫌だからねアタシ。

弘幸 う、うん。(独白) やっぱこいつマジでオレに無関心…。

美奈子 (鍋を覗き込んだままため息) はあ…。

弘幸 …ん？

美奈子 (顔を覗き込む弘幸に気づき) あー、ちょっとね…。

弘幸 ふん、(冷蔵庫を開けて) 今日ハコは？

美奈子 職場の飲み会だって。ねえ：今日さあ

弘幸 (冷蔵庫をあさりつつ) んー

美奈子 ものすごいことが発覚しちゃって。

弘幸 (上の空で) うん。

美奈子 うー…言いたいくでもく守秘義務がある〜。

弘幸 (独白) 每晚べらべら話しててよく言うよ。

美奈子 ね、コバちゃんの会社で女子のいざこざある？

弘幸 さあ、あるんじゃない？ 今の職場、ポンコツ状態の男ばかりで別の問題山積だけど。

美奈子 ほら例の女の子。

弘幸 例の？

美奈子 イジメに遭ってる。

弘幸 へえーどんな？

美奈子 (イライラしつつ) ほら前ゆった！

弘幸 オレにじゃねーよ。

美奈子 あー！そーか。だからー女ばかりの職場でえー！、(プリプリして)

弘幸 もう！コバちゃんにゆってもわっかんないわ。

弘幸 (独白) 知らないことを知らないと言っただけで……。どんだけ不条理なんだこの状況……。

美奈子 (夫の様子をまったく意に介さず) あれあれこの前ジェーアールで人身事故あった。

弘幸 どの？

美奈子 ほらあのハコが来てた日。

弘幸 (吐き捨てるように) よけー分かんねーよ。

美奈子 あれねー実はウチの女の子だったのよ。

弘幸 …。マジかよ……。

美奈子 その事故以来、イジメに遭っている子への攻撃が強化されちゃって。亡くなった子とその子がトラブっていたのよ。彼女が死んだのはあの子のせいだって。集団の心理って怖いわ。

弘幸 へえ……。

美奈子 なんか許せないよね、みんなで寄ってたかって、明らかに立場の弱い人間をイジメるんだから。人権軽視もいとこ。でも、カウソセラーって無力なんだよねー。心のケアできても状況には関与できない。ねえそういうのってやるせなくない？

弘幸 ほっときやいいんだよ。

美奈子、呆れた表情で夫をしばし見、包丁をまな板に立てる。

弘幸、妻の態度に緊張を高める。

美奈子 はー共感能力ゼロ。相変わらず冷たいよね。そういうとこ。

弘幸 だってどうすることもできないじゃん。

美奈子 どうすることもできなかったら手エこまねいて見てるだけ？ それで何か改善するの？ クサイモノにフタ対岸の火事暖簾に腕押し豚に真珠。コバちゃんといるとどんどん先人の知恵がわいてくるわ。(包丁を夫に向け) ウオーキングことわざ辞典。

弘幸 (白々しく笑いながら) 何言ってるんだよ。

美奈子 何がおかしいのよ何もおかしくないわよ。どうしておかしくない時に笑うの。そうやって誤魔化してばかりよね実際。あー、コバちゃんと話してたら頭倦んでくる。テレビ見るからもうあっち行って。

弘幸 (自虐的に独白) オレには笑う自由もないのかよ。(立ち去りつつ)

あ、忘れた。

美奈子 何？

弘幸 絵里の入金。

美奈子 あーあれ払ったいた。

弘幸 三百万？

美奈子 三百万。キャッシュで。

弘幸 どこにそんな金あるの？

美奈子 んん？ あるよ。逆に聞くけど、どうしてそれくらいの財力もないの？ 待てど暮らせど払わない。そもそも払うつもりなかったんでしょ。しびれ切らしてこっちが払うの待ってたんでしょ。金が絡むといつもそうよね。この際だからゆつとくけどウチの親も…(スマホ鳴る)。はいはいはいハコー！、いーのいーの。どうだった？ うん：うんうん、マジ？

弘幸 (独白) 毎晩友達と長電話する時間があっても料理はしない。家事もしない、セックスはさせない。オレの親は辺境の野蛮人扱いの一方、七五三、ランドセル、モントリオールの授業料まで孫に感謝されるおいしいイベントはぜんぶウエルシーな実家頼みだ。神経戦にめっぼう強く、オレに対してどんなミクロな戦いも確実に勝利を収める妻。ああ：ああ！オレが浮気に走ったとして誰が非難できる。ええ？誰がオレを責められる。オレは悪くない。いや、悪いとしてもそんなに悪くはない。あっちが7割方悪い。夫婦のことはファイファイファイだとしてもぜったいに美

奈子より悪いわけがない。オレは悪くない！！

弘幸の回想にアカネ登場。

アカネ 弘幸さん。

弘幸 ……んーん？

アカネ 大好き。

弘幸 ごめん。よく聞こえなかった。

アカネ もう！大好き大好きだ・い・すき！（弘幸にじゃれつく）

弘幸 （いちやいやしながら独白）どー考えてもオレ悪くないよな…。

雑踏の乗換駅のホーム。

ご機嫌な様子でスマホを手に歩く弘幸。

弘幸 今駅ナカ。うん、すぐ行くよ。うん？ スイーツ？ どの店？

駅ナカの雑踏に妻の姿を認め、とっさに身を隠す弘幸。

（妻が誰かと待ち合わせているのを目撃。

その相手が妻の初恋の人物だと気づく）

※括弧内の情報は現時点では観客に伏せる。

弘幸、ハツとし、ボー然と立ち尽くす。

アカネ （電話の向こうで）弘幸さん？ 弘幸さん？

弘幸 （我に返り）あ、ああ、お店分かった、分かったから。

駅のアナウンス お客様にダイヤの遅れをお知らせいたします。本日
19時半ごろ、当駅東側の線路におきまして人が侵入し、上下線
の運行を停止する事故が発生いたしました。現在、人命の救助と
路線内の安全確認をしております。大変ご迷惑をおかけいたしま
すが、運行開始まで今しばらくお待ちください。

アカネのワンルームマンションでインターフォン。

アカネ お帰りなさい。

弘幸 ……。(無言で上がり込み、スイーツの箱を手渡す)
アカネ ありがとう。ごめんね、急にお願いして。
弘幸 あ…、…。うん。
アカネ あの店、すごい人気なの。雑誌やテレビにバンバン出てて。行列できてなかった？ごめんね一人で立たせたりして。(背広を脱がせようとするも、弘幸が一人で脱ぐのを見つめる)。
弘幸 (ベッド上にある部屋着を見て) これ…。
アカネ あこれ？弘幸さん、会社帰りにくつろぎたいって前。
弘幸 あー…。(ボソッと) こんなお金かけなくても…。
アカネ あ…、ごめんなさい。
弘幸 (ハツとして) いや、ごめん、ありがとう。嬉しいよ。
アカネ ……。あ！それから、これ！(シヨップバックを手渡す)
弘幸 (袋から明らかに男用の食器や洗面器具を取り出し絶句)。
アカネ 弘幸さん…？
弘幸 あ、ごめん。
アカネ これから泊まるようになるんだったら、いるなって思って…
弘幸 あ、いや。いや！アカネにこんなにお金使わせてしまつて…
アカネ 百均だから別に。
弘幸 (心ここにあらずといった感じで) ……なんで…。
アカネ え？
弘幸 あ、いやいや。
アカネ ……何かあつた？
弘幸 いや、あー疲れた。あー(しばらくベッドに顔を埋め、がばつと起き上がり)ごめん！やっぱ今日帰るわ。
アカネ え？
弘幸 (背広を着ながら)ホントごめんね。会社に連絡するの忘れてた。
アカネ ここですれば？
弘幸 いや会社戻らないと。ごめんね。(アカネを抱きしめて)また来るからね。
アカネ またっていつ？
弘幸 また、また連絡する！

一人部屋に取り残されるアカネ。
暫くドアを見つめ 静かに座卓に着く。

舞台はアカネのワンルームのほか、木庭家のリビングも登場し、弘幸、美奈子、アカネのトライアングルが出来る。

アカネ、部屋で一人、弘幸からの連絡を待ち、テーブルの上のスマホをため息まじりに見つめる。

美奈子、テレビを見ながら、時々、自分のスマホに目をやる。

弘幸、妻がスマホを気にしている姿を盗み見る。

アカネ、スマホでどこかに電話をかける。

弘幸のスマホが鳴り、弘幸がびくつとする。
びくつとする夫を訝しげに見やる美奈子。

弘幸、電話に出ようとする。

アカネ、暗転。

美奈子 (テレビに見入ったまま) 鳴ってる。

弘幸 (スマホには見向きもしない) ああ。

美奈子 (イラッとして) ねえ。

弘幸 …。

美奈子 うるさい出て。

弘幸 はい！はい…。(スマホ画面を見て急にオフィシャルな声になり通話開始) はい木庭です。あ、いーすよ。何か…、はい…、は？ え？

美奈子 (通話を終えた夫に) 転勤？

弘幸 人事部にいる先輩から。まだ正式じゃないけどほぼ確定だって。

美奈子 どこ？

弘幸 ニューヨーク。

美奈子 はあ？！

弘幸 ウソ名古屋。

美奈子 バツカじゃない？！

弘幸 いやー…。

美奈子 そっか、所詮サラリーマン。吹けば飛ぶよな将棋の駒だよね。

ここで、アカネ登場。

アカネ (明るく) 名古屋なんだ。

弘幸 そう。たまにはミソカツ食ベにきてみやくなんてね。はは。

美奈子 (憂鬱そうに) アタシ、ついて行こうかな？

アカネ (嬉しそうに) わたし、ついて行ってもいい？

弘幸 (美奈子を見て) え？ (アカネを見て) え！！

美奈子 なんかさー、正直しんどくって。

アカネ あ、あのね。仕事辞めるの。

弘幸 なんて？

美奈子 あ？ あれあれ例のイジメ問題。クライエントの気持ちとシンク

ロしちゃって、専門用語で言う共感疲労ってやつ？

アカネ 派遣期間ぎりぎりなの。だから…次探さなきゃ。引越してもいいの。

弘幸 でも、そうしたら自分のやりたいことはどうなっちゃうの？

アカネ わたしのやりたいことは弘幸さんの側にいること。

美奈子 は？ やりたいことしかやってないけど。なに寝ぼけたこと言ってるの。

弘幸 自分で自分のこと出来るし大丈夫だよ。

美奈子 あったり前じゃない！ そりややってもらわないと困るわ。

アカネ わたし、弘幸さんのお世話するのが嬉しいの！

美奈子 あー誤解しないでよ。コバちゃんのためじゃなくって、アタシ自身ちよっと人生のブレイク必要かなーと思ってる。

アカネ だって、多分、わたし…

美奈子 以上！ ちよっとテレビの前立たないで。テーレービ！

ここからは、弘幸と美奈子の会話。

弘幸、テレビの前から動かず。

美奈子 何？

弘幸 お前さ…この前駅でさ…。

美奈子 うん？

弘幸 うん話してたじゃん。会ってたじゃん。

美奈子 は？

弘幸 この前の金曜日。乗り換えの駅ナカで誰かと待ち合わせてたよな。

美奈子 あー：

弘幸 やっぱお前だよな。

美奈子 あー：ああああ、あーあれか櫻井さん？会ったよ。

弘幸 …。

美奈子 で？

弘幸 いや。

美奈子 ハコも一緒だったけど。

弘幸 ああ。

美奈子 でなに？

弘幸 いや別に。

美奈子 ふーん。単身赴任したいんだ？

弘幸 いや：じゃないとやってけないだろ。家のローンや絵里の学費もあるし。

美奈子 は。したけりやすれば？そこどいて邪魔。

弘幸、テレビの前から移動。

アカネに向き合う。

弘幸 どどどうしたの？

アカネ 生理が遅れてて…。

弘幸 え…：。検査した？

アカネ …：まだ。

弘幸 そう…、前、不順気味だって言ってたよね？

アカネ …：うん。

弘幸 ちょっと様子見てみたら？

アカネ …：そうね。

弘幸 だってあり得ないよなーちゃんと避妊してるし。

アカネ …：。

弘幸 (自分に言い聞かせるように) いや、ちゃんとしたし。

アカネ …：。

弘幸 …。どう、したの？

アカネ 仮に妊娠したら、何か困ることあるのかなーと思って：

弘幸 いや：、困るっていうか：。男ってさ心の準備ができないんだよ。

物事には順番があるでしょ？親御さんに申し訳ないというか。

アカネ 名古屋へついていっちゃダメ？

弘幸 あー：。実は娘がついてくるって。転校して。せっかくな学校

入ったのになーははは。

アカネ ：：ついて来るなってこと？ このまま別れるの？

弘幸 いやいやいやいやそんなこと考えてないよ！

アカネ じゃあどうして？

弘幸 うーうん。うーん。

弘幸、頭を抱えつつ自宅リビングへ。

美奈子 またやってきた。ちよつと！そこ邪魔だと言っててるでしょ！？

弘幸 どうして：、どうしてお前は声出さないんだろう：。

美奈子 は？

弘幸 やっぱアイツの方がよかった？

美奈子 ええ？？

弘幸 初めてのオトコだもんな。

美奈子 (思わず吹き出す) 何それくどうしたのく。

弘幸 オレなんかただのつなぎだったんだろ。失恋の痛手を癒していた

のが流れで結婚しちゃったんだろ。

美奈子 何いきなり悲劇の誕生？ニーチェ？

弘幸 どうしてオレを拒絶するようになった。

美奈子 は？ ああ：歳歳。

弘幸 そうじゃないよな。そんなんじゃないってお前よく分かってるよな。

美奈子 やけにハッスルするじゃない今日。

弘幸 ずっと会ってたんだアイツと。

美奈子 そうきたか。

弘幸 そうくる方が辻褃合うだろ。

美奈子 辻褃ねえ：相変わらず単純思考だわ。いいわ、いい機会だから、

どうしてセックスレスになったか聞かせてあげる。

弘幸 セックスレスじゃねーだろ！？セックスの拒絶だろ。

美奈子 どっちだって同じよ。

弘幸 同じじゃねーよ。

美奈子 同じだって！ ねえ聞きたいの？ 聞きたくないの？ どっちなの？
弘幸 聞きたい。いや！ 聞きたくない！

弘幸、美奈子の前から立ち去る。

アカネの前に立つ。

アカネ 落ち着いた？

弘幸 ごめん。話しの途中にトイレに駆け込んだりして…。

アカネ 顔青いよ大丈夫？

弘幸 いや：大丈夫：。（ガバっとアカネを抱く）

アカネ ：どうしたの？急に。

弘幸 ：：本当に不安な思いさせてごめんね。

アカネ ：：（背中をさする）うん大丈夫。

弘幸 何があっても僕を棄てないでくれる？

アカネ 棄てる？

弘幸 いや：。

アカネ 棄てないわ。

弘幸 （アカネをさらに抱きしめて）ありがとう、ありがとう。

アカネ 棄てるのは私じゃないわ。弘幸さんよ。

弘幸 へ？

アカネ だって弘幸さん：。ウソついてる。

弘幸 （アカネから離れ）え？

アカネ （弘幸をじっと見つめ）本当は：娘さん

弘幸 （アカネの言葉に被せて）娘は

アカネ ！：何？

弘幸 あ：：。いや、娘はいるよ。娘が何？

アカネ ：。娘さん、私たちのこと知ってるの？

弘幸 いや：思春期だからな：。なかなか男親って：ほら、ねえ。

アカネ ：18歳ってもう立派なオトナだよ。

弘幸 いやくうちの子はまだ：

アカネ ：：。弘幸さん、この前から変。

弘幸 （アカネから目をそらし）：そんなことないさ。

アカネ いきなり帰るって言ったたり、電話に出なくなったり。

弘幸 たまたまだよたまたま。

アカネ (両手で顔を覆う) ……。ああーもう嫌、嫌。いやいや。

弘幸 (おろおろして) アカネ。

アカネ 疑って、ウソついてるかもって、そればかり、もう自分が嫌！

弘幸 (うろたえる)

アカネ だっておかしいよ。娘さんがいるから名古屋に来るなって…。別に一緒に暮らそうって言っているわけじゃないのよ。

弘幸 うん、そうだよね…

アカネ ……。ごめん。大きな声出して。

弘幸 アカネは悪くないよ、悪いのは…、僕だよ。

アカネ (寂しそうに微笑んで) わたしね、小さいころ両親が離婚して、母親に引き取られたんだけど、その母ももういなくて…。パソコ
ンに入っているのは、お母さんが遺してくれた唯一の家族写真な
んだ。だから、弘幸さんが一生懸命に乾かしてくれて嬉しかった。
弘幸 ああ、あの。

アカネ、急に弘幸にしなだれかかる。

アカネ わたし、弘幸さんの家族になりたい。

弘幸 (抱きしめようとした手を宙に浮かせたままで) あ…、あー。

アカネ どんなことがあっても一人ぼっちにしない。寂しい思いなんてさせない。あったかいご飯作って、笑顔で弘幸さんを待っている。

弘幸さんが落ち込んでたら一緒に落ち込んで、弘幸さんが喜んでたらわたしも喜んで。弘幸さんが幸せでいてくれるだけでいいの。

弘幸 あの…あのさ…。

アカネ (無垢な目で) ん？

弘幸 あ…

アカネ もう言わないで。いいの。

弘幸 あ、アカネ？

アカネ もう分かったから。弘幸さんも辛かったよね。

弘幸 あー…、あ？

アカネ だってそうでしょ？ 弘幸さんのお世話もしないのに、好き勝手にしてロクにお料理もしないで遊んでばかりで、みんなにちやほや

されて、挫折なんか知らないんだから……。そんなのいつか罰が当たらなきゃおかしいわよね。絶対におかしい。だから、弘幸さんは間違っていないわ。私はいつも弘幸さんだけを見ているから分かるもの。弘幸さんは悪くない。間違ってもいない。

弘幸
(絶句)

アカネ
どうか、した？

弘幸
あ……あ……。

アカネ
棄てるのなら、棄ててもいいわよ。だって棄てるのは、弘幸さんの方なんだから。わたしは絶対に裏切ったりしない。わたしから終わらせるなんてないから。それまでは絶対に終わらないし、絶対に終わらせない。

弘幸
あ……、

アカネ
絶対に、終わらないのよ。

弘幸、アカネから逃げる。

美奈子が声を張り上げる。

美奈子

木庭弘幸！！アンタはいつもそうよ！ いつも逃げてばっかり。そうやって、ずっと逃げてなさいよ。笑い飛ばしてやるから。ここで上手に冗談にしてやるから。はっはっ！！ ほらほら！ 逃げなさいよ！ ほーら。どうしたの？ほら。

弘幸、パニックになって逃げ惑う。

突然、大きな白い光に包まれる。

美奈子

(急に不安な表情になり) コバちゃん？？

巨大な乗り物が急ブレーキをかける音。

美奈子

(絶叫して) コバちゃん！！

アカネにピンスポット。

アカネ

絶対に終わらせないから。

暗転。

駅のアナウンス　いつも当駅をご利用頂きましてありがとうございます。お客様にはご迷惑をおかけいたしますが、ダイヤの遅れをお知らせいたします。ダイヤの遅れをお知らせいたします。

明るい陽光に包まれたリビング。

美奈子が誰かと電話をしている。

美奈子　そう…、その角を曲がってすぐのところ、そう郵便局。…迷ったからまた電話して。

穏やかな表情。何故かいつもより輝いて見える。
インターフォンが鳴り、花束を抱えたハコが登場。

ハコ　美奈子！

美奈子　ハコ…。

静かに抱き合う女友達。

美奈子の顔を見て泣き出すハコ。

美奈子　やだ、泣かないでよ。

ハコ　だって！　顔見るの一年ぶりなんだよ…もう…。

美奈子　いやー、余計な気を使わせちゃうかなーと思って…

ハコ　もー水臭い！

美奈子　いやいやホント大変だったんだから。やっと自宅療養だよ。

ハコ　うん…ホント安心した。で、彼は？

美奈子　ああ、あそこであたた寝してる。

窓辺の椅子に座り、静かに眠る弘幸登場。

ハコ、ゆっくりと近づき、何かを話しかけようとするが、寝ているのでそっとしておく。

花束を美奈子に手渡す。

美奈子 （胸に抱いた花束に顔を埋めしみじみと）いいにおい。あー花に香りがあるなんてこの一年、すっかり忘れてた。

ハコ 美奈子：

美奈子 駅で事故にあって意識不明の重体って、ドラマかって感じよね。その後は何がなんだか…、ただもう死なせちやいけないって必死だった。

ハコ、美奈子の腕にそっと手を添える。

美奈子 意識が戻るまでの三か月間は地獄だったわ。絵里が側にいてくれて本当に助かった。

ハコ 絵里ちゃんは？

美奈子 休学した分取り戻すって今朝帰って行った。あの子も強くなったわ。最初は一日中びいびい泣いてねーこっちもイライラして、いい加減にしなさい！って。

ハコ はあ…、美奈子は強いわ。

美奈子 泣いてもしょうがないじゃない。そりゃ、不幸なことだったけど。

ハコ くよくよしても始まらない。前向きに前向きに！

ハコ それでこそ姐さん！一生ついていきます！

美奈子 その言葉、忘れないわよ。

美奈子、花束を花瓶に移す。

ハコ で、櫻井さんと連絡ついた？

美奈子 あ、さつき電話したとこ。大丈夫だって。今日参加できるって。

ハコ なんかいいのかなー：

美奈子 何が？

ハコ だってえ…（弘幸に目をやり）

美奈子 ああ…、櫻井さんに会ったこと知ってたよ彼。

ハコ え？

美奈子 ほら、櫻井さんの受賞お祝い会やったじゃない？その時、駅で見
たよーって。あーそーって。

ハコ そう…なんだ。

美奈子 何？ 別にいいじゃない。ただの慰労会なんだし。アンタも一緒なんだしさ。

ハコ うん：まあそうだけど。

美奈子 あの日なんか荒れてたな彼。

ハコ ん？

美奈子 んーん。セックスストレスがどうのって。

ハコ セックスストレス！（美奈子を弘幸から離れた場所に連れていき）ねえ、無粋なこと聞いていい？

美奈子 ねえ、無粋なことしか聞かないじゃんって言っていい？

ハコ アンタこれから本当にセックスなしで生きていくわけ？

美奈子 （吹き出す）何よ！いきなり。

ハコ （弘幸を気にして）しー！ コバっちってその…。

美奈子 あ、そういうのはなくなってたし。アンタも知ってるじゃない。でもさーこれからは一生よ！一生。

ハコ 夫婦のつながりってソレだけじゃないんだよ川嶋葉子君。

ハコ もう！バカにして。

美奈子 相性悪かったのかなー

ハコ んん？

美奈子 カ、ラ、ダ。コバちゃんじゃ一度もイかなかった。

ハコ マジ。

美奈子 うん。いつか気持ちよくなるかなーと長い目で見てただけど、相手の様子感じ取って工夫するタイプじゃないから？ そのうち子育てや自分の勉強でダンナの世話どころじゃなくなってる。

ハコ 言えばよかったじゃない。

美奈子 言える？相手コバちゃんだよ？！ そんなデリケートな話できる仲じゃないよ。

ハコ はあ：そんなもんか？？

美奈子 （ぼんやりと）でも名古屋行つとけば：

ハコ ん？

美奈子 （我に返り）あ、ううん。やっぱ、カラダの相性ってあると思う。彼には悪いけど櫻井さんとは、ほんとぴったりだった。

ハコ 呆れた：よく言うよ。

美奈子 初めてのオトコを過大評価してんのかなアタシ。

ハコ いやー、男としてかなりのレベルだと思うよ。櫻井さんに言い寄

美奈子 られて落ちない女探す方が大変でしょ。
ふふ。でしょう？

ハコ でも驚き、今もまっさらの独身とは！

美奈子 奇跡だよね。

ハコ それよか、マジ今日コバっちどうするの？

美奈子 あ、それなんだけど…。

インターフォンが鳴る。

弘幸、目を覚ます。

ハコ、弘幸が目を覚ましたことに気づき、近づく。

美奈子 ちよつとごめん。

美奈子、玄関へ行く。

少ししてアカネを連れてリビングに戻る。

美奈子 よく来てくれたわね。

アカネ (にっこりとほほ笑む)。

美奈子 あ、こちら、友達の川嶋葉子さん。(ハコに) うちの会社に派遣で来てた斎藤朱音さん。

アカネ 始めまして。斎藤朱音と申します。

弘幸、不自由な体で最大限に反応する。

美奈子 斎藤さん、この人(ハコのこと)しょっちゅう出入りしているの。

ハコ こんにちはー。ハコって呼んでね。

アカネ よろしくお願ひしますハコさん。

美奈子 それから(弘幸の側に行き)私の夫、木庭弘幸です。

アカネ、言葉もなく弘幸に近づく。

美奈子 びっくりした？

アカネ いえ。

美奈子 これでも良くなった方なの。(誇らしげに夫を見て) 本当に、わた

したちのために頑張ってくれた…。

アカネ、無言で弘幸の背後に立つ。

美奈子 (ハコに) 斎藤さんね、福祉系の学校出てて、介護の資格いっぱい持ってるの。

ハコ へえー。

美奈子 ウチの会社でひどい目に遭って…。

ハコ あ、あーあの？

美奈子 (アカネに聞こえないようハコに) しっ。(元の声色に戻り) まあ、ちようど失業してたから、彼の専属ヘルパーをお願いしたの。

ハコ ふーん。知り合いだったら安心かもね。

アカネ わたしも憧れ的美奈子先生のお役に立てて嬉しいです！(ハコに) 美奈子先生には、本当にお世話になって。お母さんみたいな、お姉さんみたいな。そんな存在なんです。

ハコ (笑いを堪えつつ) へえーそうなんだー

美奈子 (ハコに少しキレ気味に) 何よ！ (申し訳なさそうにするハコに) さてと、斎藤さんも来たことだし、ちよつと車出してよ。

ハコ え？

美奈子 大量に介護用品買ったくの。(アカネに) 三十分ぐらいいい？

アカネ はい！もちろん。

美奈子 車で5分ぐらいのところだからすぐ帰ってくる。その後いろいろ説明する。

アカネ はい！よろしくお願いします！

美奈子 あ、それから、今日の夜もちよつと…

アカネ あ…、楽しんで来てくださいね。

美奈子 あら…、ただの慰労会よ。ハコも知ってる人。

アカネ 美奈子先生には、いつも生き生きしててもらいたいです。

美奈子 斎藤さん…

アカネ この一年ご主人さまのお世話お疲れ様でした。これからは、わたしにおまかせください。精一杯、お世話させて頂きます。

弘幸、反応する。

美奈子 コバちゃん！よかったわね。こんなかわいい人！（アカネに）本
当にありがとう。これで心置きなく仕事に専念できるわ。

アカネ ご主人さまのことは心配なさらないでください！

美奈子 あーそのご主人さまってやめようよ。

アカネ …？なんとお呼びすれば…。

美奈子 フツーに弘幸さんでいいんじゃない？

ハコ いいいい。この辺でそんな上品な呼び方する人いないもの。

美奈子 ウチの親も「コバちゃん」って呼んでるもんねー

大笑いする美奈子とハコ。

弘幸のひざ掛けをそっと整えるアカネ。

微妙に反応する弘幸。

美奈子 じゃ！ 行ってくるわ。何かあったら電話して。

ハコ 朱音ちゃん、コバっちをよろしくねえ。

明るく出ていく二人。

弘幸とアカネが二人きりになる。

アカネ 賑やかなこと。相変わらずキレイで魅力的。楽しいことが好きで、
反省のないポジティブさで目がキラキラしてる。何も顧みないで、
何よりも自分のことを優先して…。

怯えた顔でアカネを見上げる弘幸。

やさしげな微笑みを浮かべるアカネ

アカネ あの日以来ですね。

SEでゴーという電車が走る轟音。

アカネ、クスクス笑い出す。

アカネ 美奈子先生って、おしゃべり。（何かを思い出したように吹き出す）
カウンセリング室でも信じられないくらいしゃべってた。どっち
が相談してんのか分かんなくなるくらい。（おかしそうにケラケラ

笑う。笑い過ぎて弘幸の足元に蹲り、膝掛けに顔を埋める)

弘幸 (無言でアカネを見下ろす) …。

アカネ (笑いを止め、鋭く顔を上げ) だから、あなたのこともすぐ分かった。

最初の場面、アカネの視点で回想。

駅の雑踏。電車の急ブレーキ音が鳴り響き、駅員の怒号が飛び交い、騒然とする駅のホーム。

アカネがせつぱつまった表情で足早に去ろうとする。

スマホで通話しつつ歩く弘幸とすれ違う。

弘幸 だからキバじゃなくてコーバ。ツリーの木にお庭って書いてコバ

って読むの。木庭弘幸。…お客様番号？今分かんないよ。

アカネ、すれ違った相手が誰なのか気づく。

弘幸の進行方向の前方へ走って行き立ち止まる。

パンプスのヒールを力を込めて壊して注意深く履き直す。

弘幸 クロネコさん？ クロネコさん！

弘幸、前方に立つアカネにぶつかる。

地べたに蹲るアカネ。

見下ろす弘幸。

最初の場面の再現。

SEで電車が走るゴーという長い長い轟音。

明るい陽光に包まれた木庭家のリビング。

アカネ わたしね、美奈子先生に憧れて、美奈子先生みたいになりたくて。

弘幸 …。

アカネ だから、美奈子先生ばかり見てた。そのうち、なんでなんだろう。

なんで美奈子先生は全部持っているんだらうって。胸が痛くなっ

弘幸 …。

アカネ 何かひとつ美奈子先生のもの壊しちゃったらこの人、どうなっちゃうんだらうって。想像したら、何だか楽しくなって。

弘幸 …。

アカネ あなたって単純よね。美奈子先生と正反対のことをしたら、わたしに夢中になった。あともうちよつと。もうちよつとで壊せる。美奈子先生が昔の男の人に会う現場を見せてあげたのに…

弘幸 …。

アカネ わたしと別れようとするなんて。

弘幸 (震えはじめる) …。

アカネ だから突き飛ばしたの。

弘幸 …。

アカネ ほかの人みたいに。

弘幸 …。

アカネ でも、あなたは死ななかった。

弘幸 …。

アカネ どうしてだか分かる？

弘幸 (微かに頭を振る)

アカネ (弘幸の膝に頭を載せて) わたしが、死なせないでってお祈りしたから。

弘幸 (懸命に抗おうとする)。

アカネ (顔を上げ) だって、弘幸さん、まだ何も終わってないのよ。

おしまい